

天照大御神(ヒミコ)と素戔鳴尊／神武天皇と日本武尊 〓 乱世を鎮めた英傑たちの生涯 〓

目次 ◇日神の天照大御神／ヒミコの一生〔歌詞(一〓十一)〕 ◇水穂(瑞穂) 国 ◇邪馬台国はどこか

天照大御神(向津姫、ヒミコ)と素戔鳴尊

- 倭奴国／向津姫の誕生 ●神国と常世づくりと伊弉諾 ●豊受皇太神 ●倭国大乱
- 伊弉諾の南遷◇熊族／熊曾(熊襲)の遠祖 ●二人の天照大(御)神
- 日神の出現 ●天石窟 ●オロチ退治 ●天日槍来襲 ●忍穗耳と天孫饒速日の天降り
- 葦原中つ国の平定 ●瓊瓊杵の出現 ●天孫火瓊瓊杵の天降り ●日神の畿内遷座
- 女王ヒミコ ●皇子の交換 ●女王の朝貢 ●海幸彦と山幸彦 ●内部抗争
- 火明饒速日の天降り ●女王の伊勢遷座 ●ヒミコの崩御／女王トヨ

神武天皇(磐余彦)と日本武(小碓)尊

- 一都七道制／磐余彦の誕生 ●天神火明饒速日／素戔鳴の最期／小碓の誕生 ●太子磐余彦
- 景行の熊襲征伐 ●和王 磐余彦 ●仲哀の熊襲征伐 ●東征出発 ●筑紫国の奪還 ●新羅遠征
- 吉備と出雲の征伐 ●生駒の敗北 ●熊野上陸 ●日本に迫る ◇日限・日前・熊野家の先祖祭祀復興
- ◇日前宮 ◇熊野三山 ●日本の降伏 ●橿原宮 ●日本武の北伐／日本武昇天

皇祖皇宗に奉る郊祭(天照大御神夫妻の天神祭祀)

- 大和朝廷のはじまり 1／皇天(天照大御神夫妻)の御陵づくり／宗廟の創建 ●大和朝廷のはじまり 2
- 皇祖皇宗に奉る郊祭／神武天皇の御陵
- ◇「記紀」本来の筋書 ◇王朝の変遷 ◇倭国／倭奴国の国のかたち ◇本書の王系譜 ◇金印「漢委奴国王」
- ◇中国の神話と古代史 ◇封禪と蓬莱三島の仙人 ◇邪馬台国と天竺のかかわり ◇神武(磐余彦)と神功／海部氏系図
- ◇歴代ヒミコの墓／箸墓古墳の変遷 ◇神武天皇／日本武尊にまつわる伝説 ◇主な参考文献

☆尊称や敬語は省略 ☆記紀で食い違う王系譜については『古事記』を尊重し、人名の漢字は『日本書紀』によった。
☆地名は、現代用語によったものもある。(百濟、新羅、任那、近畿、畿内、東海、九州、四国、関東、東北など)

倭奴国王朝六代女系天神・天之尾羽張神の御代、即ち伊弉諾政権期の一八〇年代に、東の副都を治める皇太子(向津姫の婿養子)が三輪オロチ族と組んで反乱した。伊弉諾は大軍を率いて東征したが、逆に北九州を蹂躪され、本拠の熊襲に逃げ込んだ。ここに皇太子率いる畿内の邪馬台国、高千穂郷を天宮(天上にあるごとく装った都)とする高天(倭国、天之国十日高国)の王朝が並立した。

百年後、日向から東征した磐余彦(神武)は、邪馬台国の日本朝を倒して倭奴国王朝を再興し、大和朝廷に名を改めた。この間に大活躍して太平の世に導いた英傑たち、日神の天照大御神(向津姫、ヒミコ)、素戔嗚尊、神武天皇、日本武尊の生涯をつぶさに綴りました。

歴史をさかのぼると、光武帝劉秀が漢朝再興を遂げた直後の一世紀前半、倭国も出雲の豊葦原中つ国と盟約して、女系天神を担ぐ王朝を再興した。それが倭奴国王朝だ。向津姫はその六代天神の日嗣の御子として糸島平野井原の天宮で生まれ育ち、いずれ七代天神・日神に担がれる身にあつた。

当時、五帝期の神国、周・呉・越・韓の末裔だった指導者らは、競って神国・常世づくりに奮闘してきた。結果は大乱に陥って畿内と南九州に二王朝が並立したが、双方とも神仙思想・儒教・仏教・バラモン教の良いところどりをしつつ、新たな国のかたちを必死に模索していた。

その中でも皆の切実な願いは、不老不死の実現・魂の再来・古の善政再現よりも、部族間のしきたり・宗教観の違いから多発する対立や争い事を一気に解決し、同じ価値観・同じ心の在り方・同じ生活の決まりを共有する国につくり変えて天下泰平を叶えること、併せて平穩裏に倭奴国王朝を再現することにあつた。それには、孫子の兵法極意「戦わずして勝つ」・「刃に血塗らずして敵を平伏させる」の実践が不可避とされた。二八〇年代中頃、日向を發つた東征軍は、以下の目標も声高に唱え出した。

一、日神と高皇産靈の唱える徳と真ごころ、火瓊瓊杵と火火出見の正義の心を押し広める。

一、二家に分裂した日隈・日前・熊野家を紀伊や熊野で一家にまとめ、伊弉諾夫妻・真名子の熊野櫛御氣野を熊野家祖霊としてお祀りする。一、日神夫妻を皇祖皇宗としてお郊祭りする。

一、地上での常世(古墳)づくりを皆にも分かち与える。